

●学校支援情報●

# 岡崎むかし館通信

vol.9



<http://www.city.okazaki.aichi.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。

今回は、むかし館の夏休み催事の報告も兼ねて、ちょっと盛りだくさんです。

## 郷土の素材いろいろ

— 活用・教材化へのヒント —

### 「郷蔵」の謎？



石原町 郷蔵

岡崎市東部に位置し、新城市と隣接している石原町字屋下にある火の見櫓の隣に「郷蔵」が一棟建っています。県道に面して扉がある瓦葺2階建ての建物です。蔵は石原町で管理され、地域に関する近世文書を始めとする古記録類が千数百点も残されています。これらは「石原区有文書」として、当地の歴史を知る上で重要な役割を果たしています。

石原町の江戸時代の様子を『額田町史』から拾い出してみると、村高は慶長検地帳では宮崎郷を一村として600石余と記載されています。しかし、宝永7年(1710)の差出帳(石原区有文書)では同村の村高は264石余と記され、従来から村方は、石原組96石余、牧原組49石余、屋下組64石、内久保組53石余の4組に小割にして支配していたことがわかります。また、宝暦6年(1756)の差出帳では村況の記録から、御林4カ所、秣場、百姓林36、百姓藪7などを記録し、家数115軒、人数754人、牛2匹、馬35匹で、酒屋1、大工1、木挽2、紺屋2の存在が確認できます。現代の私たちにとって蔵は、まるでタイムカプセルのようです。

しかし、本来「郷蔵」は何のためにこの地に存在し、また「郷蔵」と言うようになったのでしょうか…。

寛政2年(1790)、江戸幕府は飢饉対策として、凶作に備え、穀物を貯蔵する「郷蔵」「困蔵」を建てるように命じました。この命により、石原の郷蔵も建てられました。つまり郷蔵は、粳、麦、稗などの穀物を詰替えて村で保存し、飢饉に備えるのが本来の役割です。そして、郷蔵の「郷」という言葉は、中世から近世にかけての村落共同体(農民の自治

## 「郷蔵」の謎？（つづき）

団体)を指すもので、近世封建体制の下で領主が、農民支配の行政単位として設置しました。従って、ムラの単位を「郷」と称したことが由来だと思います。現在でも、市内の岡崎小学校区に「若松郷」「柱郷」という通称が使用されており、当時の名残がみられます。

現存する石原町以外に、「郷蔵」があったという伝承を、矢作町、渡通津町でも聞くことが出来ました。岡崎に存在していた「郷蔵」は、「災害から命を守る」「モノを大切にす  
る」「近隣同志が助け合う」など、自助の精神を「今」に伝える歴史文化遺産として評価すべきものだと思います。現代の小学校区に設置されている「防災倉庫」と繋げて考えて行くことも必要だと思います。「今」を読み解くには、過去の人々の「知恵と工夫」をしっかりと描き直さなければ、見えてきません。地域を調べる意味はそこにあると思います。

【N】



渡通津町 郷蔵跡



現代の郷蔵(学区防災倉庫)

## 地域の再発見

### 野本先生のフィールドノートメモ

#### 夏祭り岡崎の花火

岡崎の夏祭りとして岡崎市民はもとより、近郷近在から多くの見物客が集まる岡崎の花火について少し情報を提供します。

岡崎市観光夏祭り花火大会は、8月第一土曜日に行われています。もともとは菅生神社の祭礼として、7月19日に行われていた「菅生祭り」に始まります。菅生川に浮かべられた数艘の銚船上から、手筒花火が打ち上げられ、金魚花火も出されていきました。合わせて花火玉の長持ちを担ぐ練りも行います。現在では、岡崎市の観光夏祭り花火大会として、同時期に開催しています。観光夏祭りに埋もれた形になってはいますが、今でも古礼に基づき、菅生神社による儀礼・祭礼は執り行われています。

次にその様子を記します。



## 夏祭り岡崎の花火（つづき）

平成26年8月2日（土）14時から菅生祭り大祭。14時30分から、宮司を先頭に2艘の銚船<sup>ほこぶね</sup>、天王丸と菅生丸に分乗し安全を祈願する「船魂祭<sup>ふねだま</sup>」、宮司の祝詞に続き「銚船神事」。15時30分に、神前にて奉納手筒花火。19時に、天王丸・菅生丸で奉納花火、という流れで行われています。



神葎

「銚船神事」は、船上から菰<sup>こも</sup>で編んだ舟形の中に人形<sup>ひとがた</sup>、神葎<sup>みよし</sup>を乗せ、菅生川に流し、疫神を流すという御霊会の儀式を伝える神事です。観光夏祭りの裏で厳かに行われているこうした神事から、今一度、岡崎の花火大会の真の意味を、考え直してみるべき事例かと思えます。【N】



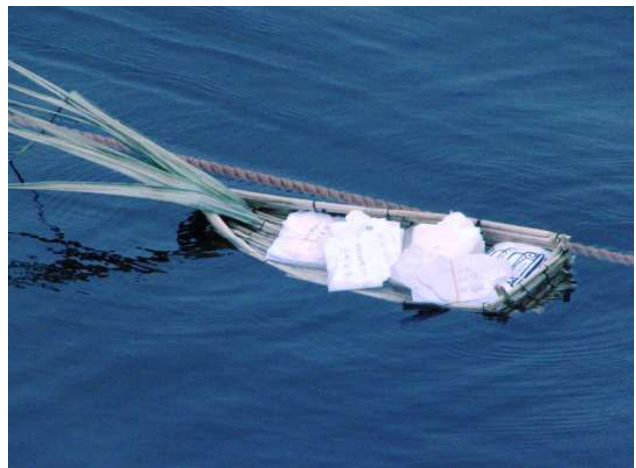
天王丸船上祭壇



船上での船魂祭



銚船神事（祓い）



菅生川に流された神葎と人形

夏休み催事の報告

＜夏休み子ども体験講座・社会科自由研究相談＞

日にち/平成26年7月26日(土)、27日(土) 時間/10:00-11:30、13:30~15:00

- ① 社会科自由研究相談：りぶら開館以来6回目となる、野本主任専門員による「社会科自由研究相談」を実施。今年度は中学生の相談が初めてあり、回を重ねることで、少しずつ質問に来る子どもたちのレベルも上がっているように感じました。
- ② 体験講座：今年は2日間限定、むかし館内に蚊帳を吊りました。蚊帳、こなす道具(葉研・石臼)、お釜(羽釜・電気釜)の3種類のワークシートを作成。参加した子どもたちと一緒に道具観察をし、いろんな気づきを感じてくれました。こうした体験は、学校によるむかし館見学时にも提供したいのですが、滞在時間と場所、対応人数など様々な制約で難しいです。今後は出前授業などパッケージ化を図り、もっとむかし館を利用しやすくしたいです。
- ③ 道具まちがい探し(夏休み期間限定)：昭和10年代のくらしを再現した回転ステージに、この時代にはまだ登場していない道具をまぎれこませて、探してもらいました。会話をしながら、積極的に展示を見ている人が多くいました。(※下の写真がそのようす。少し見にくいですが、いくつまちがいがあるかわかりますか?)【A】



9月1日の防災の日は、関東大震災にちなみ定められました。今年8月31日に市内各所で地域総合防災訓練が実施されました。学校は避難所に指定されており、地域防災の拠点でもあります。現代の「郷蔵」である防災倉庫を通して、地域で災害に備える意味を考えてほしいです。(上記の写真の答えは6つ：エアゾール式殺虫剤、蛍光灯スタンド、電気保温ジャー、プラスチック製の洗濯板とバケツ、電気コンロ。この写真では判別しにくかったですね。)

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成26年9月  
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

次回展示 【企画展「火鉢考」 9/11~12/9】

★「社会科研究作品展」／りぶら2階ギャラリー、10/4~14  
★「社会科研究作品発表会」／りぶら1階会議室 103、10/11 午前10時~11時30分